



### 2024 年春夏号

- 春季特別展「動物と考古学—愛でる、使う、食べる—」
- 来館者 200 万人突破！—コロナ禍を乗り越えて—
- 復活！大中遺跡まつり—全国から古代体験がやってきた！—
- 古代鏡展示館（加西分館）春季企画展「漢代の人々 —姿と想い—」

#### 春季特別展

### 動物と考古学 —愛でる、使う、食べる—

期間：令和 6 年 4 月 20 日(土)～6 月 30 日(日)

発掘調査では、土器や石器、家の跡など昔の人の様々な生活の痕跡が見つかります。その中でも、遺跡の環境によって少し珍しいものが発見されることがあります。その一つが動物の骨です。

1990 年代以降、遺跡から出土した動物の骨や貝殻などを科学的に分析する「動物考古学」の研究が進み、昔の人々の動物利用の実態が明らかになってきました。

一般的に、考古学は人文学の一分野として捉えられてきましたが、近年自然科学との分野を超えた研究により、これまでの考古学の研究方法ではわからなかった事実が解き明かされるようになりました。

本展覧会では動物考古学について入門的に紹介しながら、旧石器時代から江戸時代まで、人々が暮らした環境にどのような動物がいたのか、人と動物がどのように関わったのかを明らかにします。人々が食べ、利用し、そして愛した動物について、骨や土製品、絵画などの考古資料から先人たちと動物の関わりの歴史を探ります。



孔が開けられたイノシシの骨/神戸市・新方遺跡(神戸市蔵)

本展覧会では、【愛でる】【使う】【食べる】の 3 つの視点から動物と人の関わりについて紹介します。

まず【愛でる】のコーナーでは、人々に愛され、時には国家間の贈り物になった動物について紹介します。縄文人と犬との関係は？猫はいつから日本にいるの？などの疑問に答えます。



犬形土製品/千葉県・西広貝塚ほか(市原市教育委員会蔵)

【使う】のコーナーでは、動物の角や骨を材料とした道具について紹介します。昔の人はどのような動物を素材として利用し、加工し、使用していたのかを解説します。



骨製の化粧道具と櫛・簪/兵庫津遺跡(神戸市蔵)

【食べる】のコーナーでは、昔の人の動物食を骨や貝殻から探ります。貝塚の研究を紐解き、縄文人の暮らしについて紹介します。東日本を代表して千葉縣市原市の西広貝塚と天神台遺跡、西日本・兵庫県を代表して日笠山貝塚（高砂市）、長谷貝塚（豊岡市）を取り上げます。



貝塚の貝殻/千葉県・天神台遺跡(市原市教育委員会蔵)

さらに、現代の日本では忌避されている犬食について、弥生時代以降の歴史をたどります。江戸時代には「生類憐れみの令」により犬は保護されましたが、明石城武家屋敷から出土した犬の骨には、解体・調理した痕跡が残っていました。動物考古学の研究が解き明かす、歴史を通した人々の動物食の実態をご紹介します。

また、遺跡から見つかる貝殻や骨からどのように歴史を復元していくのか、骨格標本などを用いた動物考古学の調査研究方法を紹介します。

今回、兵庫県立人と自然の博物館のご協力により、動物の剥製を展示する機会に恵まれました。生きていた当時の姿と出土した骨とを見比べなが

ら、ぜひ展示室で昔の人が出会った動物に思いを馳せてみてください。



テン（冬毛）（兵庫県立人と自然の博物館蔵）



イノシシ幼獣（うりぼう）剥製（兵庫県立人と自然の博物館蔵）

展示の最後に、環境の変化や人々の活動の影響により、絶滅した動物について紹介します。人と動物の過去を見つめる本展を通して、私たちと動物の現在・未来の関係について考えるきっかけを提供したいと思います。

（学芸課 新田宏子）

### 担当学芸員の紹介



学芸課の新田宏子です。今回の展覧会は、博物館に初めて来る就学前の小さな子どもたちや障がいのある方もわかりやすく学べる内容にしたいと思い、身近な「動物」をテーマにしました。本物に触ることができる「ハンズ・オン展示」を設け、体感しながら展示品との対話を楽しんでいただけるよう工夫しました。

展示の準備を深める中で、過去の人々と動物との関わり方が見えてきました。縄文犬との愛情に溢れた関わりがあった一方で、現代の私たちから見ると残酷に感じる関係もありました。

命を奪い利用しながらも愛してきた、人間と動物の多様で複雑な関係をご紹介します。

## 来館者 200 万人突破！ーコロナ禍を乗り越えてー

令和 5 年 10 月 29 日(日)

開館から 16 年目となる令和 5 年の 10 月 29 日に、来館者 200 万人を達成しました。これまでご来館頂いた全ての皆様に感謝申し上げます。

新型コロナの影響もあり、ゆっくりとしたペースになりましたが、ようやくこの日を迎えることができました。

めでたく 200 万人目となったのはご家族の来館者。記念セレモニーでは、家族を代表して小学生の男の子に、記念品が手渡されました。

(企画広報課 相見雅彦)



## 復活！大中遺跡まつりー全国から古代体験がやってきた！ー

令和 5 年 11 月 4 日(土) 場所：当館・大中遺跡公園

恒例の大中遺跡まつりが当館と播磨町の共催で開催されました。ここ数年はコロナ禍により、中止あるいは規模を縮小しての開催でしたが、今年度は物販・飲食ブース・古代体験ブースの出展があり、コロナ以前の規模に復活しました。

古代体験ブースには全国から 35 団体の出展があり、延べ 4,828 名の参加者に一日限りの古代体験を提供しました。その中から特に来場者から人気のあったブースを紹介します。

### 【鳥取県立むきばんだ史跡公園：ミニ墳丘墓づくり】

山陰地方に特有の「よすみとつしゅうがたふんきゅうぼ四隅突出型墳丘墓」のミニチュアづくりで、大中遺跡まつりのために特別に用意されたメニューです。粘土に石を貼り付け、本物の墳丘墓を再現した手のひらサイズのミニチュアで、来場者には大人気でした。



### 【淡路市教育委員会：弥生かじ鍛冶体験】

毛皮製のファイゴで風を送って火の温度を上げ、熱した釘を叩いて、ペーパーナイフを作成するという体験です。

ファイゴの操作を実体験し、石器を使って釘を加工できたことに、感動される参加者が数多くおられました。



### 【当館：製塩土器による塩づくり】

当館とボランティア（考古楽倶楽部）が共同で出展しました。

来場者が製塩土器に塩水を注ぎ、水を蒸発させて塩を取り出す体験です。自分の手で塩作りが体験できるため大変好評でした。



令和 6 年の大中遺跡まつりも全国の団体を招待して古代体験を実施する予定です。お楽しみに！

(学習支援課 野島悠之)



## 漢代の人々 ―姿と想い―

令和6年3月16日(土)～9月8日(日) 場所：加西分館「古代鏡展示館」

中国の漢時代（紀元前202年～紀元後220年）は、先行した秦王朝が成し遂げた国家統一を継承・発展させ、アジア最大の国家が約400年の長きにわたり続いた時代として知られています。この時代は、社会経済は発達、様々な文化も隆興しますが、その中で銅鏡の文化も大きく開花しました。

劉邦<sup>りゅうほう</sup>が漢王朝を成立させてからしばらくは社会の混乱が続きましたが、半世紀余りが過ぎて国家基盤がようやく安定し、7代皇帝武帝<sup>ぶてい</sup>（在位：紀元前141年～紀元前87年）の時代に最盛期を迎えるに至ります。ちょうどこの頃、銅鏡に銘文が入れられるようになりますが、そこには日常の幸せが永遠に続くことなど、人々の素直な願望が記されていました。

武帝は豊かな財政を背景に戦争など対外政策を積極的に行うようになります。在位の後半期に制作された銅鏡には叙情的、悲哀な銘文が現れます。戦争の長期化や領土拡張は一方で人々の心にも影響を及ぼしていったようです。

銅鏡の図像、銘文にはこのように時代の空気、人々の想いが映し出されています。本展では、漢時代に数多く制作された銅鏡の中から、人々の姿を表わした作品、人々の心情が記された作品を展示し、図像や銘文を通してこの時代に生きた人々の想いを紹介します。約2千年の時を隔てて現在に生きる私たちの心情と当時の人々の想いを比べてみませんか。

（加西分館事業課長 長濱誠司）



彩絵人物車馬鏡（前漢）

鏡背面に顔料で文様を描いた銅鏡 / 貴族たちが交流する4つの場面が描かれる



異体字銘帯鏡（昭明鏡 前漢）

デザイン化された文字を主紋様とした銅鏡 / 銘文には忠誠心が主君に届かない悲しみを記す

触れる・体感する、考古学のワンダーランド。  
**兵庫県立考古博物館**  
Hyogo Prefectural Museum of Archaeology

■休館日：月曜日（祝休日の場合は翌平日）

〒675-0142

兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1

TEL 079-437-5589

FAX 079-437-5599



考古博物館 HP

—— 兵庫県立考古博物館 加西分館 ——  
**古代鏡展示館**  
Hyogo Prefectural Museum of Ancient Bronze Mirrors

■休館日：水曜日（祝休日の場合は翌平日）

〒679-0106

兵庫県加西市豊倉町飯森1282-1

兵庫県立フラワーセンター内

TEL 0790-47-2212

FAX 0790-47-2213



加西分館 HP

**兵庫県立考古博物館NEWS**  
vol.33 2024 Spring-Summer

発行年月日 令和6年3月15日

編集・発行 兵庫県立考古博物館

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1

TEL.079-437-5589

FAX.079-437-5599

<https://www.hyogo-koukohaku.jp/>